

# 手術看護記録の質の向上に向けた記録の分析

—記録の集計を行なって見えた今後の課題—

手術部

○西川 知佐    西岡 香織    吉本 舞    堀川 紗代

**【内容要旨】** A病院の先行研究にて、手術看護記録にクリニカルパス（以後パス）を導入することにより、その有用性を示す効果が挙げられたが、改善すべき課題がいくつか明らかとなった。今回パスの充実を図るため、課題である「用紙・システムの不備」「バリエーションの捉え方や対応の難しさ」を改善させ記録の質を向上させるため、まず現状を明らかにし、どのような取り組みが必要であるか検討した。A病院で行われた1780症例を対象とし、使用されたパスを遡及的に見直し、パスの項目以外で記述されているデータを収集し、KJ法にて分析を行った。その内容は、「手術」「持参物」「体位」「投薬」「バイタルサイン・患者状態」「患者の訴え」「バリエーション」の項目に分類できた。A病院ではパスによる手術看護記録を作成し、定期的に見直し改善点をフィードバックさせることにより、手術看護に関する標準化・効率化・リスク管理が適切に行われていることが判明した。

〔平成23年7月2日 第42回日本手術看護学会四国地区（高知）にて発表〕